



ハウスジューメン住宅瑕疵担保責任保険 設計図書確認シート

保険契約申込みに必要な書類のうち設計図書確認・現場検査に必要な書類および記載内容です。書類の不足、記載内容に不備（設計施工基準に適合しないなど）があると受付処理等が遅れ所定の検査時期に間に合わない場合がありますので、事前にご確認ください。（『現場検査の手引き』もご参照ください。）

（１）保険申込みに必要な設計図書の種類

【提出】 ◎必須 ○該当する場合必須 △任意

			提出書類	確認欄
1	◎	建築確認済証等	□「A」のいずれか ⇒A^	□
2	◎	<主に木造住宅> 【住宅の区分a】 建築基準法第6条第1項第4号に規定する建築物である住宅及び同第1項第1号から第4号に規定する建築物以外の住宅（建築確認を要しない住宅）	<input type="checkbox"/> 付近見取図（案内図） <input type="checkbox"/> 配置図 <input type="checkbox"/> 平面図 <input type="checkbox"/> 立面図またはこれに代わる図面等 <input type="checkbox"/> 基礎の状況に関する次のいずれかの資料 ⇒B^ <input type="checkbox"/> 2階の状況に関する次のいずれかの資料 ⇒C^ <input type="checkbox"/> 防水措置の状況に関する次のいずれかの資料 ⇒D^ <input type="checkbox"/> 天窓・煙突の施工がある場合の防水措置に関する資料 ⇒E^	□
		【住宅の区分b】 上記以外の住宅	<input type="checkbox"/> 付近見取図（案内図） <input type="checkbox"/> 配置図 <input type="checkbox"/> 平面図 <input type="checkbox"/> 立面図（4面） <input type="checkbox"/> 基礎伏図 <input type="checkbox"/> 矩計図または断面図 （防水措置の状況に関する資料の内容が記載されたもの） ⇒F^ <input type="checkbox"/> 床伏図（各階） <input type="checkbox"/> 構造の状況に関する資料 ⇒G^	□
3	△	瑕疵保険仕様書	□瑕疵保険仕様書 ⇒H^	□
4	○	設計施工基準により難しい工法・仕様等の場合の資料	□「I」のいずれかの資料 ⇒I^	□
5	◎	地盤調査に関する資料	<input type="checkbox"/> 「J」のいずれかの資料 ⇒J^ 地盤補強工事が必要な場合でも計画書のご提出は不要です。 ただし、補強工事報告書は最終検査前までにハウスジューメンに提出、または最終検査時に検査員に提示をお願いします。	□
6	○	建設評価に関する資料	<input type="checkbox"/> 建設評価申請受理書（写） ⇒K^ （当社以外の住宅性能評価機関へ建設評価を申請する場合）	□
7	○	S基準に関する資料	<input type="checkbox"/> S基準の内容がわかる資料 ⇒L^ ※S基準でお申し込みの場合	□

保険契約申込みに必要な設計図書以外の書類

8	◎	保険契約申込書（WEB申込みの場合は不要）	□
9	◎	契約内容確認シート	□
10	◎	請負契約書または売買契約書の写し	□

A. 建築確認済証等	
提出書類	
次のいずれか	
<input type="checkbox"/> 建築確認済証または確認申請書一～六面（共同住宅の場合は確認済証および確認申請書一～六面） <input type="checkbox"/> 建築工事届一面～四面（建築確認を要しない場合） <input type="checkbox"/> 計画通知書(行政庁の建物の場合)	
備考	
①延べ床面積・別棟（自転車置場・駐車場等）の有無の確認できるもの（確認申請書一面～六面等）を提出してください。 ②確認済証は交付後に提出でも可とします。	

B. 基礎の状況に関する資料	
提出書類	
次のいずれか	
<input type="checkbox"/> 基礎伏図、および矩計図または断面図 <input type="checkbox"/> 基礎の断面、配置および配筋状況がわかる資料（平面図及び立面図等へ記載したもので良い）	
【提出書類例】	
例1：基礎伏図 および 矩計図（下記必要記載事項が記載されているもの）	
例2：基礎伏図 および 基礎断面詳細図	
例3：平面図に基礎立上部分を記載したもの および 立面図に基礎仕様を記載したもの	
必要記載事項	
＜ベタ基礎の場合＞	＜布基礎の場合＞
<input type="checkbox"/> 基礎立上り部分の配置 <input type="checkbox"/> 配筋状況（主筋・配力筋・腹筋・あばら筋等の鉄筋種類・径・間隔） <input type="checkbox"/> スラブの厚さ <input type="checkbox"/> 立上り部分の高さ（地盤面より） <input type="checkbox"/> 立上り部分の幅	<input type="checkbox"/> 基礎立上り部分の配置 <input type="checkbox"/> 配筋状況（主筋・配力筋・腹筋・あばら筋・ベース筋の鉄筋種類・径・間隔） <input type="checkbox"/> ベースの厚さ（布基礎） <input type="checkbox"/> 立上り部分の高さ（地盤面より） <input type="checkbox"/> ベースの幅 <input type="checkbox"/> 立上り部分の幅

C. 2階の状況に関する資料

提出書類	
次のいずれか（3階建ての場合は3階の状況に関する資料を含む）	
<input type="checkbox"/> 2階床伏図 <input type="checkbox"/> 2階の床の火打ち梁の位置がわかる資料（平面図へ記載したもののものでも良い）	
【提出書類例】	
例1：2階の床伏図	
例2：2階床のプレカット図	
例3：平面図を利用した2階床の火打ち梁の位置を記載したもの	
例4：矩計図（構造用合板等を使用し火打ち梁を省略する場合）	
例5：瑕疵保険仕様書（「H」参照。ただし、火打ち梁の場合は、別途床伏図等の提出が必要です。）	
必要記載事項	
<火打構面の場合>	<床構面（剛床）の場合>
<input type="checkbox"/> 2階床の火打ち梁の位置	<input type="checkbox"/> 構造用合板の厚さ

D. 防水措置の状況に関する資料

提出書類	
次のいずれか	
<input type="checkbox"/> 矩計図または断面図 <input type="checkbox"/> 外壁、屋根およびバルコニーの防水措置の状況がわかる資料（平面図および立面図等へ記載したものでよい）	
必要記載事項	
外壁	次のいずれかを記載 <input type="checkbox"/> 乾式工法（乾式以外の通気構法含む）：仕上げ材、透湿防水シート、通気層（胴縁種類・通気層厚さ） <input type="checkbox"/> 湿式工法：仕上げ材、アスファルトフェルト430 <input type="checkbox"/> ALC等：外壁仕上げ材、防水塗材 <input type="checkbox"/> メーカーの定めた仕様の場合はメーカー名・商品名※
屋根 (勾配屋根・陸屋根)	次のいずれかを記載 <input type="checkbox"/> 仕上げ材、勾配、アスファルトルーフィング940 <input type="checkbox"/> メーカーの定めた仕様の場合はメーカー名・商品名※
バルコニー	次のいずれかを記載 <input type="checkbox"/> 床勾配（1/50以上）・防水層の種類・防水層の立上寸法（開口部下端 $\geq 120\text{mm}$ それ以外の部分 $\geq 250\text{mm}$ ） <input type="checkbox"/> メーカーの定めた仕様の場合はメーカー名・商品名※
※『メーカーの定めた仕様』の場合で設計施工基準により難しい工法・仕様等の場合は、別途資料が必要となります。 （「H. 設計施工基準により難しい工法・仕様等の場合の資料」参照）	

E. 天窓・煙突の施工がある場合の防水措置に関する資料	
提出書類	
□防水納まり図（メーカー仕様の場合はメーカーカタログの納まり図でも可）	
備考	
①メーカーの仕様書による施工である場合はメーカー名・商品名を記載してください。	

F. 防水措置に関する資料（木造住宅以外）	
必要記載事項	
次のすべて	
□屋根仕上げ、勾配	
□防水層の下地種類、防水工法の種類	
□各階排水ドレインの位置	

G. 構造の状況に関する資料（木造住宅以外）	
提出書類	
次のすべて	
□構造特記・標準仕様書	
□断面リスト	

H. 瑕疵保険仕様書	
木造住宅における「D. 防水措置」または「M. S基準に関する資料」の図面等の準備がない場合にご利用ください。（ご利用は任意です。）	
書式は、「届出事業者様専用ページ」-「住宅かし保険」-「チェックシート」からダウンロードできます。	

I. 設計施工基準により難しい工法・仕様の場合の資料	
提出書類	
次のいずれか	
□「設計施工基準第3条の確認書」（写）※1	
□設計施工基準と同等以上の性能を有すると判断できる工法・仕様等を記載した設計図書等またはメーカーカタログ等の資料※2	
※1 設計施工基準により難しい工法・仕様等を取り扱う建材メーカー、防水材メーカー等が当社へ申請し、当社が同基準に規定する仕様と同等以上と認定し発行した証明書（「包括3条確認」という）	
※2 「包括3条確認」以外の場合に、保険申込者等により申込物件ごとに行う手続き	

J. 地盤調査に関する資料

提出書類

次のいずれか

地盤調査報告書（次の項目の記載部分があるもの）

- 調査方法 ● 現地状況（隣地および道路との高低差） ● 地形図 ● 調査位置図
- 調査データ（調査位置全箇所） ● 考察（調査実施会社の所見が記載あるもの）

現地調査チェックシート

（木造戸建住宅2階以下の場合で、現地調査の結果、地盤調査が必要ないと認められたものに限る）

備考

① SWS試験の調査データから地盤補強が必要かどうかの目安は『基礎構造判定基準』（届出事業者様専用ページに掲載）をご参照ください。

② SWS試験は建物の4隅付近を含め4点以上で行うことを原則とします。

③ ボーリング調査は1点以上で行うこととしボーリング柱状図をご提出ください。

<地盤補強が必要な場合>

地盤補強工事が必要な場合でも計画書のご提出は不要です。

ただし、補強工事報告書は最終検査前までにハウスシーメンに提出、または最終検査時に検査員に提示をお願いします。

<地盤調査報告書の考察に基づかない補強・礎形状を採用する場合>

地盤調査報告書の考察に基づかない地盤補強・基礎形状を採用する場合は、採用内容の安全性が判断できる①または②の資料をご提出ください。安全性が確認出来ない場合は、現場検査は適合になりません。

- ① 設計者による工学的判断 ※1
- ② 調査実施会社または設計者以外の第三者による検討資料
（設計者が承認し、設計者の記名押印があるものに限る）

※1 設計者による工学的判断とは、採用工法が安全だと設計者が判断した根拠（沈下量計算等）が記載されたものをいいます。ただし、設計者の記名押印があるものに限ります。

K. 建設評価に関する資料（当社以外で建設評価を申請する場合）

提出書類

次の資料

建設評価申請受理書（写）

<保険証券交付申請時に必要な書類>

保険証券交付申請をする際は、次のすべてをご提出ください。

① 建設評価書（写）

共同住宅で複数戸が建設評価を受けた場合は、どれか一つの住戸の建設評価書の写しと建設評価を受けた住戸の一覧をご提出ください。

② 防水工事の施工状況報告書

防水工事の施工状況報告書（写真）の提出が必要となりますので、写真の撮り忘れにご注意ください。必要な撮影箇所は、「施工状況報告書（防水）※他機関性能評価付き住宅用」をご参照ください。

（「届出事業者専用ページ」→「住宅かし保険」→「技術的内容関係」→「チェックシート」からダウンロードできます。）

L. S基準の内容がわかる資料（S基準でお申込みの場合）

提出書類

□S基準の内容がわかる資料（下記内容が記載された矩計図等または瑕疵保険仕様書）

＜木造＞		
項目	記載事項	確認欄
外壁の軸組等の防腐防蟻 ※1	地面からの高さ1m以内の部分について次のいずれかの措置 □通気構法等 □防腐・防蟻処理材（北海道・青森県は防腐材） □小径12cm角以上の製材または集成材等 □耐久性区分D1（ヒバ・ヒバノキ等）の樹種に区分される製材または集成材等（図面に樹種を記載）	□
土台の防腐防蟻	土台に接する外壁の下端に水切りを設置 □水切り	□
	土台は次のいずれかの措置 □K3以上の防腐・防蟻処理（北海道・青森県はK2以上の防腐） □耐久性の高い樹種 （いずれかの図面に樹種を記載して下さい）	□
地盤の防蟻	基礎の内周および束石の周囲の地盤は、次のいずれかの措置 （北海道・青森県・岩手県・秋田県・宮城県・山形県・福島県・新潟県・富山県・石川県・福井県を除く） □鉄筋コンクリート造のべた基礎またはこれに準じるもの □有効な土壌処理	□
基礎の高さ	□地面から基礎上端まで又は地盤面から土台下端までの高さが400mm以上	□
床下の防湿・換気	床下の防湿措置は次のいずれかの措置 □厚さ60mm以上のコンクリート □厚さ0.1mm以上の防湿フィルム	□
	床下の換気措置は次のいずれかの措置※2 □長さ4m以内ごとに有効面積300cm ² 以上の換気口の設置 □長さ1m当たり有効面積75cm ² 以上の換気口の設置（ねこ土台の場合） □基礎断熱（床下換気措置は不要）	□
小屋裏の換気	次のいずれかの措置※2 □独立した小屋裏ごとに2ヶ所以上の換気口 □原則として、換気口の有効面積の天井面積に対する割合は1/300以上 □屋根断熱（小屋裏の換気措置は不要）	□

※1 軸組等：外壁部の柱、間柱、筋違又は合板、下地（胴縁を含む）等

※2 床下の換気措置・小屋裏の換気措置については、設置位置・箇所・有効面積についての記載は任意

＜RC造＞					
項目	記載事項			確認欄	
セメント種類	次のいずれか □ポルトランドセメント □フライッシュセメント □高炉セメント			□	
鉄筋かぶり厚	□鉄筋のかぶり厚が水セメント比ごとに定めた所定の寸法以上				
	水セメント比	普通コンクリート	□55%以下	□60%以下	
		軽量コンクリート	□50%以下	□55%以下	
	土に接しない部分	耐力壁以外の壁・床	屋内	□2cm	□3cm
			屋外	□3cm	□4cm
		耐力壁、柱、はり	屋内	□3cm	□4cm
屋外			□4cm	□5cm	
土に接する部分	壁、柱、床、はり、基礎の立上部分	□4cm	□5cm		
	基礎（立上り部を除く）	□6cm	□7cm		
コンクリート	スランプについては次のいずれか			□	
	□18cm以下（コンクリート強度33N/mm ² 未満）				
	□21cm以下（コンクリート強度33N/mm ² 以上）				
	□単位水量185kg/m ³ 以下				
□空気量4～6%（沖縄県等は除く）					

<S造>

項目	記載事項	確認欄																				
鋼材の防錆	次のすべて <input type="checkbox"/> 柱（パースプレート含）、はり又は筋違いに使用されている鋼材には次の表のイ若しくは <input type="checkbox"/> のいずれかの防錆措置	<input type="checkbox"/>																				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">鋼材の厚さ</th> <th style="width: 40%;">一般部</th> <th style="width: 45%;">最下階（地階を除く）の柱脚部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9mm以上</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">/</td> <td><input type="checkbox"/> イ. 表1の区分1～5のいずれか</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分1～5のいずれか</td> </tr> <tr> <td>6mm以上</td> <td><input type="checkbox"/> イ. 表1の区分1～5のいずれか</td> <td><input type="checkbox"/> イ. 表1の区分2～5のいずれか</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分1～5のいずれか</td> <td><input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分2～5のいずれか</td> </tr> <tr> <td>2.3mm以上</td> <td><input type="checkbox"/> イ. 表1の区分2～5のいずれか</td> <td><input type="checkbox"/> イ. 表1の区分3～5のいずれか</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分2～5のいずれか</td> <td><input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分4～5のいずれか</td> </tr> </tbody> </table>		鋼材の厚さ	一般部	最下階（地階を除く）の柱脚部	9mm以上	/	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分1～5のいずれか		<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分1～5のいずれか	6mm以上	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分1～5のいずれか	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分2～5のいずれか		<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分1～5のいずれか	<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分2～5のいずれか	2.3mm以上	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分2～5のいずれか	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分3～5のいずれか		<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分2～5のいずれか	<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分4～5のいずれか
	鋼材の厚さ		一般部	最下階（地階を除く）の柱脚部																		
	9mm以上		/	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分1～5のいずれか																		
				<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分1～5のいずれか																		
6mm以上	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分1～5のいずれか	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分2～5のいずれか																				
	<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分1～5のいずれか	<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分2～5のいずれか																				
2.3mm以上	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分2～5のいずれか	<input type="checkbox"/> イ. 表1の区分3～5のいずれか																				
	<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分2～5のいずれか	<input type="checkbox"/> ロ. 表2の区分4～5のいずれか																				
床下の防湿・換気	木造と同じ	<input type="checkbox"/>																				
小屋裏の換気	木造と同じ	<input type="checkbox"/>																				
<input type="checkbox"/> 柱、はり又は筋違い以外に使用されている鋼材（厚さ9mm未満の場合）にあっては、表1の鉛系さび止めペイントは2回以上全面塗布																						

表1（防錆処理（塗膜）一覧）

区分	下塗り1（塗り回数）	下塗り2（塗り回数）	中塗り・上塗り（塗り回数）
1	a 鉛系さび止めペイント(1回)	—	鉛系さび止めペイント(1回)
	b 鉛・カドミウムさび止めペイント(1回)	—	鉛・カドミウムさび止めペイント(1回)
	c ジンクリッチプライマー(1回)	—	—
	d 2液形エポキシ樹脂プライマー(1回)	—	—
2	e 厚膜形ジンクリッチペイント(1回)	—	—
	f 鉛系さび止めペイント(2回)	—	合成樹脂調合ペイント(2回)
	g 鉛・カドミウムさび止めペイント(2回)	—	合成樹脂調合ペイント(2回)
	h 2液形エポキシ樹脂プライマー(1回)	—	合成樹脂調合ペイント(2回)
3	i 2液形エポキシ樹脂プライマー(1回)	—	2液形エポキシ樹脂エナメル(1回)
	j 2液形エポキシ樹脂プライマー(1回)	—	2液形エポキシ樹脂エナメル(2回)
4	k ジンクリッチプライマー(1回)	—	2液形厚膜球状樹脂エナメル(1回)
	l ジンクリッチプライマー(1回)	2液形エポキシ樹脂プライマー(1回)	2液形エポキシ樹脂エナメル(1回)
5	m ジンクリッチプライマー(1回)	2液形エポキシ樹脂プライマー(1回)	2液形エポキシ樹脂エナメル(2回)
	n ジンクリッチプライマー(1回)	2液形厚膜エポキシ樹脂プライマー(1回)	2液形厚膜球状樹脂エナメル(2回)

表2

区分	めっき処理			
	熔融亜鉛めっき	熔融亜鉛めっき鋼材	熔融55%アルミニウム—亜鉛合金めっき鋼材	熔融亜鉛—5%アルミニウム合金めっき鋼材
1	A 片面付着量が30g/m2以上60g/m2未満	—	—	—
	B 両面付着量が60g/m2以上120g/m2未満	両面付着量表示記号がZ06、Z08、Z10、F06、F08、F10	—	—
2	C 片面付着量が60g/m2以上90g/m2未満	—	—	—
	D 両面付着量が120g/m2以上180g/m2未満	両面付着量表示記号がZ12、Z14、F12	—	—
3	E 片面付着量が90g/m2以上120g/m2未満	—	—	—
	F 両面付着量が180g/m2以上240g/m2未満	両面付着量表示記号がZ18、Z20、Z22、F18	—	—
4	G 片面付着量が120g/m2以上180g/m2未満	—	—	—
	H 両面付着量が240g/m2以上360g/m2未満	両面付着量表示記号がZ25、Z27、Z35、Z37	両面付着量表示記号がY18	—
5	I 片面付着量が180g/m2以上	—	—	—
	J 両面付着量が360g/m2以上	両面付着量表示記号がZ45、Z60	両面付着量表示記号がAZ70、AZ90、AZ120、AZ150、AZ170、AZ185、AZ200	両面付着量表示記号がY20、Y22、Y25、Y27、Y35、Y45、Y60

(2) 現場検査時に用意する書類・図書

現場検査時にハウスジメーンの現場検査員による確認があります。説明資料としてご用意ください。
(設計図書として提出済の場合は持参不要)

書類名		記載内容	検査時期
①	地盤補強工事報告書 または施工写真 (地盤補強が必要な場合)	「(3) 地盤補強工事の確認に必要な資料・報告書」に該当する施工写真・施工報告書 【注意】ハウスジメーンの現場検査員が最終回検査時に確認できない場合は、別途提出が必要となります。	最終回検査
	②	柱頭・柱脚金物の 選択根拠に関する 資料	
③	耐力壁の位置に関する資料	耐力壁(筋違い・構造用面材等)の位置および仕様 (木造住宅の場合)	躯体検査時

① : 地盤補強が必要な場合は必須です。

②・③: ご用意がある場合は現場検査員が確認します。(提出・持参は任意です。)

(3) 地盤補強工事の確認に必要な資料・報告書

	地盤補強工事の確認に必要な資料	現場検査員による資料の確認 <現場検査時>
入念な転圧	不要	不要
床付け転圧		
直接基礎		
砕石地業		
置換工法 または 一部置換工法 (土・砕石)		
表層改良	範囲・深さ・改良状況のわかる 施工写真または施工(工事)報告書	必要
柱状改良	施工(工事)報告書	
小口径鋼管		
既成コンクリート杭		
その他補強工事		

【補足】

表層改良工事の施工写真の例

【範囲】 施工範囲が全体的に撮影されたもの

【深さ】 掘削深さがわかるように測定記録写真用巻尺(スタッフ等)が撮影されたもの

【攪拌状況】 セメント系固化材の混合攪拌状況

【転圧状況】 指定厚さ毎のローラー、ランマー等で転圧している状況

【注意】

採用した地盤補強工事が地盤調査報告書の考察と整合がとれない場合は、採用した地盤補強工事の安全性が判断できる資料の提出が必要となります。**安全性が確認できない場合は、現場検査は適合になりません。**

安全性が判断できる資料については「(1) 保険申込みに必要な設計図書の種類 J. 地盤補強に関する資料」をご参照ください。